

特別講座実施報告



特別講座実施報告

事業部会 教育・普及委員会

2021年8月28日（土）に第10回品質工学特別講座「田口論説と事例に学ぶパラメータ設計コース」がWeb形式で開催された。今回の参加者は5名であった。

第1回を2016年5月に開催してから5年以上になる。スタート時の講座名は「品質工学の基礎と事例学習セミナー -パラメータ設計-」であったが、世にある知識伝達型のセミナーと違う双方向コミュニケーションを狙っていることから、「セミナー」を「特別講座」と名称変更した。双方向と口にするのは易しいが、実現は難しい。しかし、双方向でなければ知識は定着しないし、理解が深まることも難しい。新しいスタイルを求めて始めたのが特別講座である。

1. 特別講座の狙い

特別講座の内容は田口玄一が著した論文を教材として、品質工学の考えを学ぶことと、併せて優秀事例により品質工学の実践的な知見を得ることを目指したものである。その狙いは田口の考えの伝承である。狙いというよりも動機と言った方がよいかもしれない。田口からの直接の指導が望めなくなってから10年以上になり、顔を写真や映像以外にみたことのない会員が増えている。品質工学の考えも変化して伝えられていく。時代の変化につれて考えの解釈が変わっていくことは世の常である。しかし、誤解により悪く変質して伝えられることがある。田口の考えの伝承は学会の重要課題である。いつまでも田口に捉われていてはいけないうる、乗り越えて新しいことへ挑戦するべきだという声がある。しかし、「守破離」という有名な言葉があるが、「破離」の前

に「守」がある。考えを理解する「守」があってこそ、それを乗り越える挑戦がある。

また、手順を伝達するだけでは応用力が身につかない。既発表事例の模倣の域を出ないため競争力のある技術は開発できないし、イノベーションの核を生み出すことは難しい。考えの理解により応用力が発揮される。

2. 講座の内容

今回も、これまでと同じくパラメータ設計で4つのセッションを企画した。それぞれのセッションは議論の時間を見込んでおり、参加者より「加法性」「品質工学と実験計画法の違い」「基本機能と目的機能」「なぜエネルギーで考えるのか」といった基本的な問いかけによる議論があった。講師陣にとって、自分ではわかっているが他人に分からせるのは簡単ではない事項もある。終了後アンケートでも「議論できたのがよかった」という意見を頂いている。しかし、Web形式のため、対面式と比べると討論のやりにくさはあった。

また、本講座は双方向コミュニケーションの手段として、田口の論文を読み、それに対する質問を提出する宿題を事前に参加者へ送付した。提出された質問に対して、講座当日に講師が解説を行った。この事前宿題は、参加者からのアンケートでも好評であった。なお、幾つかの質問については、学会誌の品質工学入門者向け解説欄「QEアラカルト」への掲載を検討している。このような有意義な特別講座が開催できたことに対して、参加者の方々、本企画・運営に関わった関係者および講師の方々に感謝する。今後は、さらなる内容のブラッシュアップ